

学食に恩返し 寄付続々

八尾高 卒業生ら150万円

「コロナで経営難

新型コロナウイルスの影響で休業するなど経営に苦しんでいる高校の学食を、卒業生らがクラウドファンディング（CF）で応援する動きが相次いでいる。八尾市の府立八尾高校では、生徒と学食が共同開発したレトルトカレーがもたらすとあって、既に約150万円が集まった。卒業生らは「お世話になった学食に恩返しをしたい」と意気込む。

（北瀬太一）

生徒ら開発 お礼にカレー

約900人が学ぶ同校の学食は、ボリュームのある定食やカレーが400円までの値段で、育ち盛りの生徒に欠かせない存在。しかし、今年はコロナの影響で6月15日の通常授業再開まで3か月以上休業し、現在は混雑を避けて席数を3分の1の約70席に減らしている。運営への補助金はなく、経営する浜本行則さん(46)



●CFとカレーをPRする浜本店长(手前)と食物研究部員(八尾市の府立八尾高で) ●食物研究部員と浜本店长が開発したチキンカレー(左)とポークカレー(右) 八尾高提供

は「人件費や施設使用料を考えると元々、収支はトントンに近かった。休業に加えて、座席を減らしたこともある余裕はない」と話す。

同校の学食は2018年に業者の撤退で閉鎖されたが、別の府立高で学食を営んでいた浜本さんが旧知の教員に頼まれて引き継ぎ、継続した。その経緯を知った同窓会長で前池田泉州銀行頭取の藤田博久さん(67)らが「生徒が困ることがないよう、OBや関係者一体で応援しよう」と支援を呼びかけた。

購入型CFの仕組みで、支援すればオリジナルのレトルトカレーがもらえるようにした。同窓会の依頼を受け、同校の食物研究部と浜本さんからトマト入りのポークカレーと、地元産小松菜のペーストを加えたチキンカレーを開発。商品名は、学校敷地内にある丘の名前にちなんで「八尾きつね山カレー」とし、美術部員がキツネをあしらった包装をデザインした。

6食につき3700円で支援を募ったところ、25日

現在で目標の2倍以上の約150万円が集まった。「食堂には大変お世話になりました」「学食頑張れ」などのコメントも寄せられ、浜本さんは「うれしい。何があっても営業を続けたい」。食物研究部の植田結実さん(16)は「昼休みに楽しくご飯を食べながら、友達とほっと一息つけるのが学食の良いところ。今回のCFが少しでも助けになれば」と話していた。CFは8月末まで受け付けており、専用ウェブページ(<https://www.makunake.com/project/yaokitsuneyamacurry/>)から。

河南高でも

府立河南高(富田林市)でも学食をよく利用していた卒業生から「CFを使って応援したい」という申し出があり、6月8日～7月5日に寄付を募った。期間限定のオリジナルメニューを提案できる、学食にメッセージを掲示できる——などの特典をつけたところ、400万円以上が寄せられた。

店長の中村純也さん(40)は「学食に愛着を持つ人が多いことを実感した。卒業生や生徒らをつなぐ場になりたい」と語る。